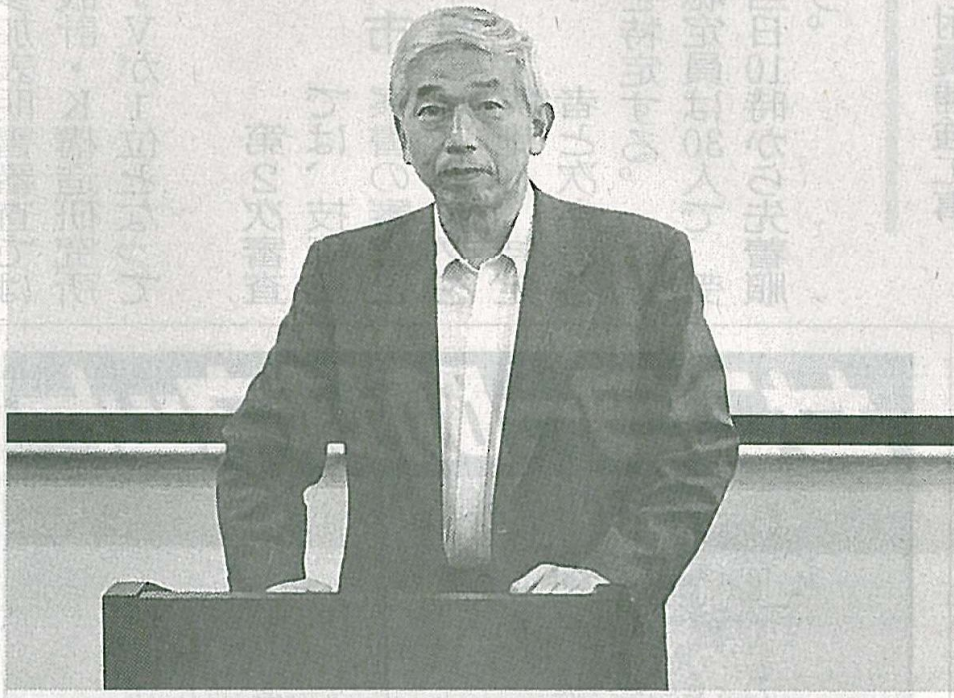


“発足10年”近年で採用急増

ASRRリチウム工法協会 総会開く

アルカリ骨材反応により劣化したコンクリート構造物の補修工法拡大に 向けてゼネコンや専門工事会社らで組織し、このほど発足10年を迎えたA



あいさつする長谷部会長

SRリチウム工法協会（長谷部正和会長）の定期総会が6月下旬、協会員である鴻池組の大阪本店内で開かれた。

総会では、平成26年度事業報告や27年度事業計画、予算案、役員改選などの議案を審議し、いずれも満場一致で承認。協会発足後64件の実績のうち、多くを最近2～3年で受注するなど採用が急増していることや、他協会との共催により全国18カ所で開催予定の「コンクリート構造物の補修に関するフォーラム」で、4000人を超える申し

込みを受けていることなど、工法に対する関心が非常に高まっていることも報告された。

長谷部会長（極東興和）は、設立10年に至る会員の努力に深い感謝を表明したのち、「本工法に対する関心は非常に高くなっており、ASRR対策としてののみならず、塩害を含めた複合劣化対策への本工法の積極的適用を目指す。発注者に受け入れられやすい技術的などりまとめを検討し、工法の一層の普及を図っていきたい」と抱負を述べた。

また、総会後には技術顧問である京都大学・宮川豊章特任教授による設立10周年記念講演会『造りこなしで、使いこなしアルカリシリカ反応を

中心として』も開かれ、約60人の聴講者を前に時空間シナリオをイメージした維持管理でコンクリート構造物を丈夫で美しく、長持ちさせるためのストックマネジメントの重要性を説いた。

ASRRリチウム工法は、コンクリート構造物表面から削孔した圧入孔を通じ、亜硝酸リチウムを主成分としたASRR抑制剤を構造物内部に加圧注入し、コンクリート全体に抑制剤を浸透拡散させるもの。これまで対策工法のなかったコンクリート内部のASRR劣化を抑制すると同時に、塩害対策としての効果も期待され、構造物の長寿命化を実現できるとしている。